**1. はじめに（大見出し：前後1行スペース）**

これは，「教育社会学研究」に投稿する際の論文のテンプレートである。論文執筆の際は，このテンプレートを使用するか，これに近い書式で作成すること。このテンプレートを編集して作成された論文であっても，投稿規定に違反している場合は受理しない。様式が崩れていないか，頁数が超過していないか等，十分に注意して使用すること。

**1.1. 提出書類（小見出し：前1行スペース）**

論文原稿とは別に，「要旨」および「連絡先」を提出すること。「要旨」には，1枚目に日本語で論文題目および要旨（600字以内），キーワード3語を記載する。2枚目には英文で論文題目および要旨（500words程度），キーワード3語を記載すること。「連絡先」には，1枚目には日本語で，2枚目には英語で，それぞれ論文題目，名前，所属機関名，連絡先（郵便番号，電子メールアドレスを含む）を記載すること。ただし，論文題目，要旨，連絡先は頁数にカウントしない。

**2. 投稿論文作成の手引き**

投稿論文は，本文，図，表，注，引用文献を含めてA4判（37字×32行）で18頁以内とする。全角文字の大きさは10～11ポイントとし，余白を上30ミリ，下40ミリ，左右30ミリ程度とる。

**2.1. 本文の構成**

本文には，適宜，見出し（1, 2,……）および小見出し（1.1, 1.2,……）を付ける。見出しの前後には1行のスペースを入れ，小見出しの場合には，前に1行のスペースを入れる。「謝辞」「注」「引用文献」の前にも1行のスペースを入れる。

「本文」「注」および「引用文献」は本文と同じポイントの全角文字を使用し，欧文および算用数字は半角文字を使用する。

**2.2. 図表のレイアウト**

図，表は，本文中の適切な箇所に自らレイアウトし作成する。図表のある頁も上の余白指定に従うものとする。なお，出版時はA5判で白黒印刷されることを考慮し適切な大きさで作成すること。図，表は別のソフトで作成したものを貼り付けることも可。その場合，採択決定後にオリジナルデータを送付する。

**2.3. 注・文献・謝辞等の記載方法**

「拙著」「拙稿」などの表現や，研究助成，共同研究者への謝辞など，投稿者名や所属機関が判明，推測できるような表現は控える。ただし，これらの記載が必要な場合は採択決定後に加筆することができる。加筆する場合は，あらかじめその分のスペースを用意しておくこと。

注は文中の該当箇所に，(1)，(2)，……と表記し，論文原稿末尾にまとめて記載する。

引用文献の提示方法は，原則として次の形式に従う。

　　「しかし，有田（1990，p.25）も強調しているように……」

　　「……という調査結果もある（Chiba 1989，Honda 1990a）」

　　「デュルケームによれば『……ではない』（Durkheim訳書 1981，pp.45-46）

また，同一著者の同一年の文献については（Honda 1990a，1990b）のようにa，b，c，……を付ける。

文献は，邦文，欧文を含めてアルファベット順とし，以下の例に従って注の後にまとめて記載する。翻訳書・翻訳論文については，原典の書誌情報を記載する。

**〈引用文献〉**

有田祐子，1990，『教育社会学』西洋館出版。

Chiba, Masao, 1989, *Sociology of Education in Japan*, US Press.

Durkheim, Emile, 1938, *L'évolution pédagogique en France*, Librairie Félix Alcan, 2 vols. (=1981，小関藤一郎訳『フランス教育思想史』行路社).

Honda, Naoki, 1990a, *Sociology of Education*, Tokyo Press.

──── 1990b, *Sociology of school*, Japan Press.

井上敏子，1990，「教育社会学の展望」『教育社会学研究』第50集，pp.10-25.

Maeda, Taichi, 1990, “Schooling in Japan,” *American journal of sociology*, Vol.62, No.3, pp.5-18.

Tachibana, Kaoru, 1990, “Recent Trends in the Sociological Studies of Education,” T. Yamada ed., *Sociology of Education*, UK Press, pp.17-28.

東洋一郎，1990，「教育社会学の反省」山田太郎編『教育社会学講座1　教育社会学の方法』南洋館出版，pp.10-25.